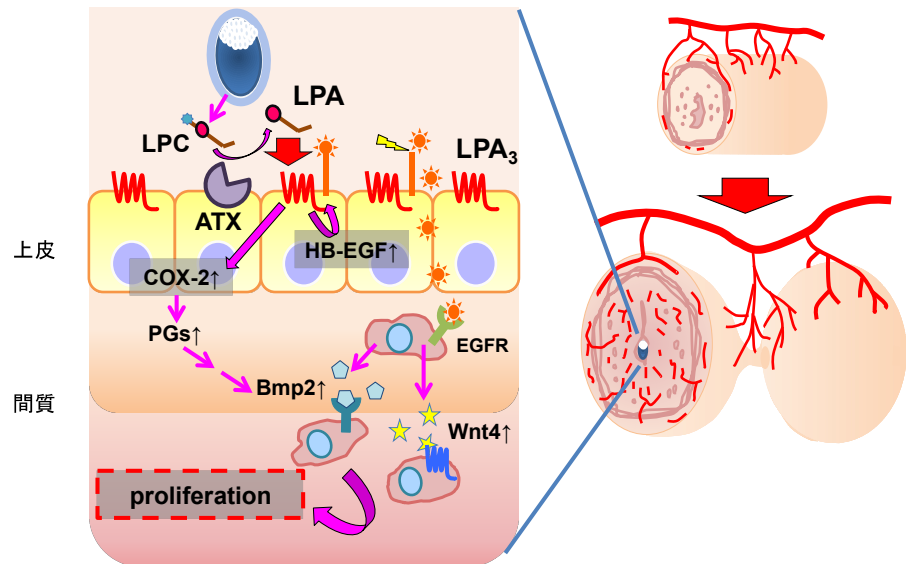


子宮内膜増殖の分子メカニズムを発見 -子宮内膜症発症の分子標的を発見-



LPA₃受容体を介するリゾホスファチジン酸
シグナルを介する子宮内膜増殖機構

- 生理活性リゾリン脂質受容体LPA₃は子宮内膜上皮に発現し、受精卵近傍で産生されたリゾホスファチジン酸 (LPA) を受容し、HB-EGF, COX-2, Bmp2, Wnt4の発現を誘導することで子宮内膜の増殖を促進することを解明。LPA₃ノックアウトマウスでは子宮内膜症が起きにくいことを発見。

→LPA₃は子宮内膜症の創薬標的である

開発・推進

東北大学薬学研究科 分子細胞生化学分野

参考資料等

Autotaxin-lysophosphatidic acid-LPA3 signaling at the embryo-epithelial boundary controls decidualization pathways.

Aikawa S, Kano K, Inoue A, Wang J, Saigusa D, Nagamatsu T, Hirota Y, Fujii T, Tsuchiya S, Taketomi Y, Sugimoto Y, Murakami M, Arita M, Kurano M, Ikeda H, Yatomi Y, Chun J, Aoki J. EMBO J. 36, 2146-2160 (2017)